（別紙4-1）

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0197400021		
法人名	有限会社　ユートピア・アットホーム旭川		
事業所名	グループホーム金さん銀さん（金さんユニット）		
所在地	北海道深川市音江町1丁目3番13号		
自己評価作成日	平成 31年　1月　15日	評価結果市町村受理日	平成 31 年　3 月 26 日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=0197400021-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町5丁目2－35コーポラスひかり106号
訪問調査日	平成31年2月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当施設は町内会に加入しており、近隣の小学校、保育園等のボランティア受け入れを1階併設施設と毎回行っている。
・利用者様の個別の買い物や外出等については、可能な限り対応をさせていただき、社会との繋がりを確保している。また、利用者様の嗜好品や必要な物があれば、町内の商店に注文して揃えることが可能なため、地域と顔の見える環境作りに努めている。
・同業者と密な連携を図っている為、他施設で入居を断られた利用者様を受け入れる等して、切れ目のないサービスを提供できるように努めている。
・町内の個別災害支援に協力しており、緊急時には福祉避難所として地域住民の受け入れを担うことで、地域貢献に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

当事業所は高速道深川インターチェンジに近い閑静な住宅地にあって、近くには郵便局、商店、銀杏並木や小公園があって、四季の移り変わりを感じながら散歩などを楽しむことができる。鉄骨3階建ての2階に2ユニットのグループホーム、1階には介護付有料老人ホームがあり、避難訓練、夏祭りなどの行事を連携して行って、利用者同士馴染みの関係を築いて交流している。町内会に加入し、音江神社祭りには神輿が事業所に立ち寄り、小学生や保育園児が来訪して昔遊びや紙芝居をしたり、遊戯などを披露して、介護付有料老人ホーム利用者と一緒に交流している。居間、食堂は一体的で、大きな窓からは陽が入り、温・湿度・音などは適正に管理され、利用者は職員に見守られながら、ぬり絵をしたり、カルタやトランプなどをして思い思いに過ごしている。職員は利用者個々の健康状態を把握して、体操や散歩、日光浴など、無理強いしないようにして、体調が悪くならないよう気をつけ、機能訓練や自発性を引き出すケアに努めている。法人は、深川市と、「災害発生時における福祉避難所設置運営に関する協定」を締結して、地域の高齢者及び障がいを持つ方が日常生活に支障なく避難生活を送ることができるよう福祉避難所として、災害時に避難支援する事で地域貢献に努めている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
		○	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

（別紙4−1）

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	併設施設含めての理念はあったが、新たに事業所理念を作り、地域の中での事業所のありかたを職員全員で見直しした。	利用者や地域のニーズの変化に合わせ、職員全員で話し合い、新たに事業所理念「安心して、その人らしい生活をして頂く住まい作り」「地域との交流を進め、地域の一員としての暮らしのお手伝い」「個人の能力を尊重し、その能力を日常生活に活かしていく」を作り上げ実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会での行事自体が少ないが、極力利用者が参加できるように努めている。	町内会に加入し、神社の祭りには神輿が事業所に立ち寄ったり、小学生、保育園児が来訪して紙芝居や遊戯などを披露し、カラオケボランティアが来訪するなど地域との交流に努めている。福祉避難所として地域に貢献している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は認知症関連の団体に所属しており、その他の構成員と普及啓発活動を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開かれる運営推進会議では入居者の状況やプランの内容を報告しご質問意見をいただき反映させています	町内会長、長寿クラブ会長、市福祉課職員、地域住民、家族代表などが出席して年6回開催している。活動報告、行事、事故報告などを行って、質問、意見や助言を得てサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書類の提出や推進会議への参加、災害支援・入居に関しての相談など多岐にわたり相互協力関係を築くように取り組んでいる。	市担当者を訪れ、運営状況を報告し、書類の提出や指導、助言、情報を得ている。運営推進会議、地域ケア会議参加時に情報交換をしている。管理者が市主催の認知症ケア研究会に参加して協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束における身体的・精神的な弊害は十分に理解しており、入居者の状態に合わせて今最も最適なケアを実施している。	身体拘束マニュアルのほか、不適切な行動や言葉があればその都度職員同士で注意できるように情報を共有して、身体拘束をしないケアに努めている。出入り口にはセンサーが設置され、出入りは職員が連携して見守りを行っている。深川市SOSネットワークに6人登録して徘徊の状態になった場合の地域との協力関係を築いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	言葉遣いに対して常に職員間で声を掛け合っている。対応する		

グループホーム金さん銀さん（金さんユニット）

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度自体は知っているが、活用する場面が今はない。機会があれば活用していくことも吝かではない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明や理解・納得をしてもらった上で契約をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	場面にとらわれず、面会時などリラックスした雰囲気の中で談笑を交えながら意見や要望を聞き取っている。	日常の会話、表情などから利用者の意見、要望を把握し、家族等からは、来訪時や運営推進会議参加時、電話連絡時に話し易い雰囲気を作り、意見、要望を聞いてスタッフ会議で検討して運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要な意見は常に言えるような体制であり、反映に繋がることもある。	管理者は、職員が意見や提案を言いやすい雰囲気を常に作って、日常の会話や朝夕の引継ぎ時、会議で意見や提案を聞いて検討し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の日常の勤務状況や職場状況等について、日頃、職員と互いに確認し合っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会は十分では無いが、利用者の症状などに合わせて、資料を配布して短時間での勉強会は開いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内をはじめ、市外の事業者ともネットワークを構築し、情報交換に努めている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の見学時など、本人や家族からの要望等について確認し、また、入所後は会話や生活状況等からどんな想いがあるのか把握し、不安のない生活が送れるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の見学や相談時、現在の状況をもとに、家族の要望等について相談に応じている。入所後は生活状況など随時報告しながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所相談時に、今受けているサービス等について確認し、入居まで担当ケアマネがいれば、今後のサービス計画の参考にしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で利用者が主体になる場面を作れるように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との外出や自宅への外泊の機会をつくり、また、面会時には生活状況などをお話し、場合によっては職員から家族へ相談させてもらうなど互いに支えていけるよう にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前にお付き合いのあった方々の面会を大切にし、お寺の定例法座や馴染みのある商店など出来る限り行っていただいている。	病院の帰りに買物をしたり、理美容室やお寺参りに行ったり、家族と一緒に自宅で過ごしたりして、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	世話好きな利用者様を中心にトラブルがないように支援している。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院や身体状況の変化によりホームで対応が困難な場合でも、他施設と連携し切れ目のない介護が提供されるように努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各職員が日常生活の会話や行動等から、本人の希望や意向が把握できるように努めている。また、家族や職員間で情報の共有を図っている。	職員1人に利用者2人の担当制で、入所時の利用者・家族からの聞き取りから利用者の生活歴を把握し、日常の生活でのしぐさ、サイン、会話などから個々の思いの把握に努め、また、家族の情報から把握した希望、意向を日々のミーティングで共有し、希望や意向に添うよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の面談などで、家族、本人から出来るだけ情報を得るようにしている。また、入所後も会話の中で聞き取れるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が日々の生活の中で、一人ひとりの生活リズムを把握し、言動や病状等の小さな変化でも検討できるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の生活での状況をもとに、担当職員がアセスメント、モニターリングを行い、サービス担当者会議の他、ケース会議等で全職員でケース検討する。	利用者と家族の意向を反映させて、毎月モニタリングを行い、サービス担当者会議などで意見交換して、短期3ヶ月、長期1年毎に介護計画を作成し家族の確認印を得ている。状況に変化があればその都度見直すこととしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活状況は、個々のケース記録に記入し、食事や排泄、ﾊﾞｲﾀﾙ等の健康管理票として、個別に記録し状況を全職員間で把握できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望等があれば、本人、家族に代わって市町村等との事務手続き、病院などとの連携や必要に応じての通院対応等行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	時々老人クラブの参加や近隣の商店に注文しホームと繋がりがある社会資源を活用している。町内の保育園の慰問を継続して受け入れている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の他、かかりつけの病院など、本人、家族の希望する病院へ受診できます。また、通院等は家族の意見や協力を得ながら行い、病院との連絡調整を行いま す。	本人、家族の希望に添ったかかりつけ医に受診できるよう支援している。受診には職員が付き添い、結果を家族に電話で報告している。	

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の配置はない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は出来るだけ本人が安心して治療できるように、職員が出向き本人の他、病院職員と病状について情報確認している。また、退院時も同様に入院状況を確認し、担当職員と受入準備する。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化については、家族に十分な説明をした上で支援に取り組んでいる。また、医療機関との連携にも努めている。	入所時に利用者、家族に、重度化した場合における事業所で出来るサービス内容と範囲を説明し同意を得ている。利用者に医療行為の発生や食事の摂取など状況変化が有る時は早い段階で利用者、家族、主治医を含め相談し、入院など希望に添うよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練の機会は十分では無いため、今後は消防署等から訓練協力を得られるような計画を立てていきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回での火災想定の避難訓練を実施している。	避難訓練を年2回（夜間想定1回）、消防署の指導を得て、1階の介護付有料老人ホーム（統括防火管理者）と合同で実施している。深川市と、「災害発生時における福祉避難所設置運営に関する協定」を締結して、地域の高齢者及び障がいを持つ方が日常生活に支障なく避難生活を送ることができるよう福祉避難所として、災害時に避難支援する事としている。	災害時緊急連絡網を作成して、災害時の職員間の連絡体制を整えているが、職員の異動等に伴う連絡網の修正が行われていないので、速やかに整備することが求められる。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に言葉づかいについては各職員が意識している。また、プライバシーを尊重しお互いに注意し合うようにしている。	トイレなどの声掛けに気をつけて、一人ひとりの気持ちを大切に、尊厳や誇りを損ねないケアに努めている。個人情報の書類やデーターは事務所で適切に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で自らの希望等を確認し、支障がない限り自分で決めてもらい意見等を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事等の時間設定はあるが、その他は一人ひとりの生活状況に合わせ過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族に協力を得て衣類等を替える他、希望があれば化粧品や服の買い物、理美容室へと職員が一緒に行けるようにしている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食器は今まで個々に使っていた物を持参いただいている。入所の方と職員が一緒に食事をし、食後の片付け、洗い物も手伝ってもらっている。	献立は法人本部が業者に委託し、食材は配達される。調理は職員が行い、利用者に合わせた形状や味付けをしている。利用者は能力に応じてできる範囲で調理、下膳などを行っている。季節に合わせた献立（ふき、カボチャなど）が食卓を飾り、職員と一緒に食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取については毎日記録し、状況について職員間で共有している。摂取困難な場合は職員間で提供方法等を検討し対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の能力に合わせて対応を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自力での排泄が困難な方でもポータブルトイレを使用していただくなど、出来るだけトイレでの排泄が出来る様に支援している。	排泄チエック表に個々の排泄パターンを記録して、表情、態度などから、適時にさりげなくトイレに誘導し、排泄の自立に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に合わせ、飲水に乳製品を取り入れたりしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の拒否がある方でも気持ちよく入浴できるように、声掛け等を工夫し支援している。	週2回の入浴を基本とし、希望があれば何回でも入浴できる。ほぼ毎日入浴している利用者もいる。希望に合わせて入浴剤を入れたりして入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠状況を考慮しながら支援しており、必要に応じて声がけをするなどして、睡眠時間の確保に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明欄を読み、理解するように努めている。わからないことは医師や薬剤師にその都度相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗いや、そうじ洗濯等の役割を持って頂けるよう支援している。		

グループホーム金さん銀さん（金さんユニット）

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の体調等を考慮しながら随時対応をしている。	高齢に伴い外出できなくなってきているが、夏には散歩に行ったり、ベンチでの日光浴、なの花やカタクリの花を見学したりして、日常の生活に潤いと変化を提供するよう工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の方ではあるが、現金を持参してもらい嗜好品などの支払いを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話などで家族や知人とやり取りが出来るように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間については快適に過ごして頂けるよう清潔に努め、利用者同士の距離感も大切にしている。	居間、食堂は一体的で、大きな窓から陽が入り明るく、温・湿度は適正に調整され、季節に合わせてひな人形、鯉のぼりなどを飾付けして、利用者はそれぞれ自分の好きな場所で過ごしたり、広い廊下で歩行訓練をしている。食事時には音楽を流して、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置き、自分の好きな場所で過ごしていただけるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族の写真や馴染みあるものを居室に飾り、いつでも見えるように工夫している。	洗面台が備え付けられ、使い慣れた家具、テレビ、冷蔵庫、仏壇などを持ち込み、家族の写真等を飾って居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者ごとの力に合わせた対応を行っている。		